

日本ヘルスサポート学会 入会のご案内

日本ヘルスサポート学会は、地域保健、職域保健、健康サービス産業等における、健診・保健指導分野の実証研究、実践活動の成果を学問的に研究し、知見を交換できる場を提供することを目的として2006年6月に設立されました。

日本ヘルスサポート学会は、ヘルスサポートに係る医学、公衆衛生学、保健学、栄養学、経済学、心理学、マーケティング、経営学、政治学など多彩な分野の学際的な協働を目指す研究者、実践家のための学会です。

2007年1月

日本ヘルスサポート学会

ごあいさつ

日本ヘルスサポート学会 理事長 田中滋



日本ヘルスサポート学会は、ディジーズ・マネジメントおよび健康支援に関する方法とその成果の分析や、この事業がよってたつ共通基盤の整備(代表的には品質を測る標準的な指標の開発など)をめぐる研究と報告・討議の場です。

ここで「ヘルスサポート」という名称について説明しておきましょう。この名称を採用した主な理由としては、ディジーズ・マネジメントの直訳である「疾病管理」の響きがきついことがあげられます。前半分を「疾病」と捉えると、医師など医療職のみが担当する仕事との誤解が生まれかねません。また、有病者の重症化をふせぐ「ケースマネジメント」的ニュアンスが強くなります。ケースマネジメントはもちろん研究フィールドですが、われわれは、有病者ではないものの現状の検査データが気になるいわゆる「予備軍」の方、さらには健康な方をも対象とする行動をも扱おうと考えています。他方、後半を「管理」と表わすと...健康指導の「指導」もそうですが...対象者の自発性を尊ぶことが難しくなるのではないのでしょうか。そこでわれわれは、介護保険の理念である「自立支援」を参考に、「ヘルスサポート」と名乗った次第です。

この学会で繰り広げられる研究と報告で用いられる学問の方法論は、医学・公衆衛生学・保健学・栄養学・ヘルスサービスリサーチ(狭義のヘルスエコノミクス=保健経済学と薬剤経済学)等にかぎられません。対象者が健康行動への興味をもち、行動変容を起こし、改善した行動を保つための技法に資する心理学・マーケティングなども重要です。介入をたやすくするため、また測定の精度と速度をあげるための機器開発の基礎にある理工学・通信科学等も関係します。事業のあり方を検討する経営学系統の学問と、社会資源の配分を考える経済学からのアプローチも求められるでしょう。ヘルスサポートにかかわる厚生労働行政の進展を評価する政治学分野も役立つはずで、このように多彩な分野にわたると共に、学際的な協同作業を想定しています。

本学会の目標は、研究の進展とその成果の世の中への積極的発表を通じ、ヘルスサポート・サービスの発展に積極的に貢献することです。大学やシンクタンクに属する研究者はもちろん、医師・保健師・看護師・栄養士をはじめとする実際の担当者、検診を含むヘルスサポート事業を行う営利・非営利の事業者、それら事業を支援する先端技術の開発企業、保険者(社保・国保・介護保険)、生命保険会社と損害保険会社、そして政策関係者など幅広い分野からの参加と発言を期待しております。

学会の概要

名称	日本ヘルスサポート学会	
設立	2006年6月	
目的	日本およびアジア太平洋地域における研究者および実践者の研究成果および実践成果を交換・共有する機会ならびにヘルスサポートに関する研究および実践を志している者への教育の機会を提供し、内外の関係する学協会と連携することにより、日本およびアジア太平洋地域のヘルスサポートの研究および実践の発展に貢献することを目的とする。	
事業	1. 研究・実践成果発表集会の開催 2. 学会誌および成果報告等の刊行 3. ヘルスサポートに係る研究業務の支援ならびにセミナー開催など研究者および実践者の育成支援	
役員	理事長	田中滋 (慶應義塾大学大学院経営管理研究科 教授)
	副理事長	松田晋哉 (産業医科大学公衆衛生学教室 教授)
	理事	平井愛山 (千葉県立東金病院 院長)
	理事	保坂隆 (東海大学医学部 教授)
	理事	目黒昭一郎 (麗澤大学国際経済学部大学院国際経済研究科 教授)
	理事	森山美知子 (広島大学大学院保健学研究科保健学専攻看護開発科学講座 教授)
	理事	Gregg L. Mayer (Gregg L. Mayer & Company, Inc., President)
	理事	小林篤 (株式会社損保ジャパン総合研究所 代表取締役常務)
	監事	伊藤雅治 (社団法人全国社会保険協会連合会 理事長)
	監事	橋本迪生 (横浜市立大学附属病院医療安全管理学 教授)

活動計画

総会・学術集会 年1回

第1回総会・学術集会は、2007年3月24日(土)、慶應義塾大学で開催します。

学会誌の発行 年4回

学会誌は、海外、特にアジア太平洋地域との交流を図るため英文(和文抄録)で発行します。

研究論文(Original Article)のほか、実践活動報告(Case Review)も掲載し、研究者、実践家双方の発表の機会を提供します。

多様な研究領域からの多彩なアプローチによる研究に発表の機会を与えます。

研究会 随時

分野別、テーマ別の各種研究会を随時開催します。

顕彰制度(2008年度より実施予定)

優れた研究成果を挙げた個人を対象に顕彰制度を設けます。

その他

海外から研究者等を招いての国際交流イベント、各種セミナー開催を予定しています。

入会のご案内

入会資格

- ・本学会の事業を援助していただく法人その他の団体
- ・入会に当たっては理事会の承認が必要になります。

入会金・会費

- ・入会金 -
- ・会費 一口100,000円(一口以上)

会員特典

- ・一口当たり、会員法人または団体の役職員25名分に個人会員と同等の特典が与えられます。

【個人会員の特典】

- ・ 学術集会への会員料金での参加
- ・ 各種研究会、セミナーへの無償または会員料金での参加
- ・ 学会誌投稿料免除
- ・ 学会誌投稿に当たっての以下の特典
 - 和文での予備投稿
 - 和文予備投稿論文のうち、編集委員会にて優秀と認められた論文については、翻訳料の一部補助を行う(翻訳業者の指定あり)
- ・ 顕彰制度の対象者

お申し込み方法

- ・ 以下のアドレスあて電子メールに必要事項を記載しお送りください。

(電子メールアドレス) jshss@mynavi.jp

(記載事項)

法人/団体名、所在地、会費口数、受付担当の方の氏名、所属、役職、電話番号、電子メールアドレス

- ・ 理事会での承認後、会費のお振込先を電子メールアドレスにてご案内いたします。

お問い合わせ

- ・ ご質問等は、以下のメールアドレスに電子メールでお願いします。

jshss@mynavi.jp